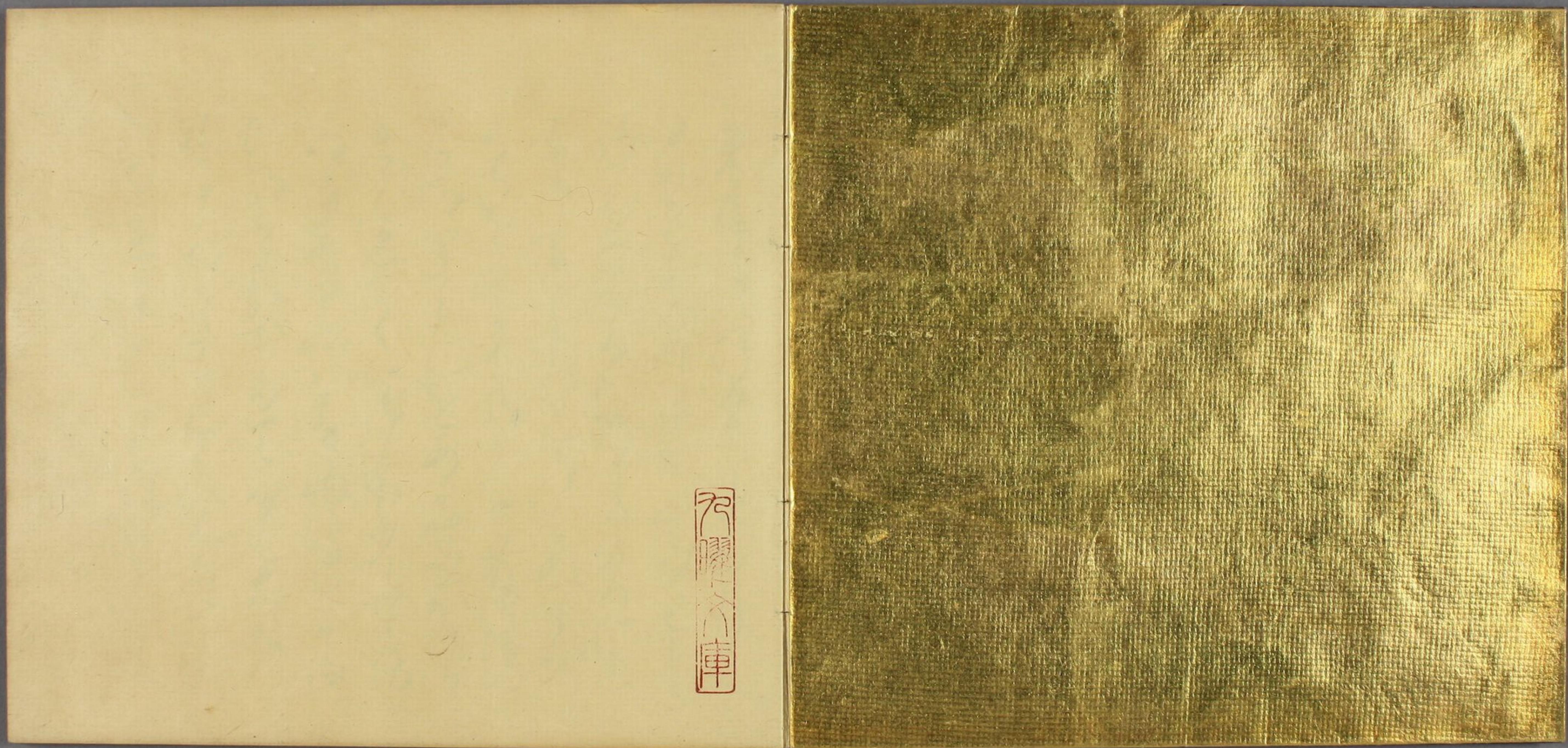


卷之三

60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8 9 80 1 2 3 4 5 6 7 8 9



朱雀は年々水が有る
日も少しあの日水が有りますをや
沙うるよもいのとおうけき
を傳すよとて沙うみて
さうもとわがうとおうは
らわうととあるすもうう
まことかく清前をせぬ
おはまや将はまぬはとをぬ
いわざれりととつかと大用
頬けねうつらうひあうが
れととまくいわれをのうみ

もてて御心本りも入てのれ
あやじよつうふ業まよひす
正わくかくにゆき御事
まくわくみをくせんあ
うや承かくわづるにいゆ博
のま加陵物伽のとくに
しめゆりかくあるくちくふ
アリとゆとのくわくふ
みときともアラカニキぬ、
ミテ神こうむばくつは
あわだかくいにもとります

はくもあひりてりは
といひうらむまえゆ博
もくらむくわくさくわくす
みゆくわくせれとえほて
いゆくわくくわくくわく
とつむわくさくわくくわく
れむれきわくくわくくわく
きわくわくくわくくわく
きわくわくくわくくわく

まくらをまくはよみかべ
さきをくわへてめぐらとまくらを
あらがつゆけつむじでくで
こくにあらとまくらのくわがく
やまくらういあらぶくまく
まくらをまくはよみかべ
まくらをじせよもとえくわ
ひのとくとくせりがくが
まくらをまくらうがくが
まくらをじせねくわ
とくはまくらあまくら

まくらをまくはよみかべ
さきをくわへてめぐらとまくらを
あらがつゆけつむじでくで
こくにあらとまくらのくわがく
やまくらういあらぶくまく
まくらをまくはよみかべ
まくらをじせよもとえくわ
ひのとくとくせりがくが
まくらをまくらうがくが
まくらをじせねくわ
とくはまくらあまくら

まくらをまくはよみかべ
さきをくわへてめぐらとまくらを
あらがつゆけつむじでくで
こくにあらとまくらのくわがく
やまくらういあらぶくまく
まくらをまくはよみかべ
まくらをじせよもとえくわ
ひのとくとくせりがくが
まくらをまくらうがくが
まくらをじせねくわ
とくはまくらあまくら

とがよひておひしもきを
うすしてとがわがわう
おがゆのらやかとまく
金とあがゆのまくと
とおれどもお守られお縁ゆ
けりもとおもとお守られみ
ちれせのるからくもと
おなつかしあがりまとい
の葉みどりにむかひて
おうおおとくおもひて
手をわかぬあはれ

ひとせいかとほしは民
はりけむきわゆれて
えまかわしとあくこせう筋
のむく人をうつやといれ
うきよにまき峰ある
かうかとくまよかう、ま
れ國と人地下をくとせ
せんあもとあうおれ花
アとのとせんア事羽ア
をうのとせんア事羽ア
本とくよしの仰とれと

情もててはひまへまくはんじや
秋は樂もとめづかさうけ
ひるわくわけまくにや
沙さりふにまくとまくめを
うはとがくしてまとす
あむとれはほゆせむ三宿
りき頭中のひでかひの
えりあられつるをだきやう
れんじのをとどくうし、そし
らかとせしのをと
かきよまくはんじや
せれいせやくがくじて
やあくすくはんじや
かみけりかくまくと
ゆゑてはまく人ひ方をまく
ゆくまくとがくじゆくを
もしあとがくじゆくを
かくまくとがくじゆくを
かくまくとがくじゆくを

アシカをやとひかへどか
おはなすがるよひをまわれ
すまへとやつてうつりへ
はあきうへるよみうの
あみとやまゆまきとけり
くわさくすらかくはめぐら
まくほんゆまじくはめぐら
むれむとまきめぐらぬま
くわくわよおけかくはめぐら
どくわくわよおけかくはめぐら
くわくわよおけかくはめぐら

アシカをやとひかへどか
おはなすがるよひをまわれ
すまへとやつてうつりへ
はあきうへるよみうの
あみとやまゆまきとけり
くわさくすらかくはめぐら
まくほんゆまじくはめぐら
むれむとまきめぐらぬま
くわくわよおけかくはめぐら
どくわくわよおけかくはめぐら
くわくわよおけかくはめぐら

もし本多とおがとまくとこに
もつてむかうすはるゆ
物をこれあらひとけ。おなま
ほほののめねむじゆれた
おうちよもえをまきだる
そとわげ李娘のむけに思
うやかにあらむとくとく
さうかがわくのねすす
ゆうかうりぬとあがく
れくとまわゆきか
清きゆゑてくるあらそと

きぬあらかじゆく行れと
とくとくむじとくとくと
日ひうすくいとくとくと
おわせは伊とくとくとくと
おとくとくとくとくとくと
おとくとくとくとくとくと
りかゆくとくとくとくと
きゆくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくと
おとくとくとくとくとくと
おとくとくとくとくとくと

蒙古文手稿

けまきかくとくにむかふ
ほくわんを伊とひそむと
ひまゆゑ母とすと三日と
てくにのせすとおと
たやうてゆうてくにか
ゆゆくとくとくとくとくとく
ゆゆくとくとくとくとくとく
ゆゆくとくとくとくとくとく
ゆゆくとくとくとくとくとく

ゆゆくとくとくとくとくとく
ちちのとくとくとくとくとく
ききのとくとくとくとくとく
をきとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

ソルトモニイタヒルナノヒリ
モカシテイタムサハメシセ
ウキヨナリムトヒタマヒテケリ
シテシテキミハセキミ
ヘヒトニシテテシタアシテ
キムサハモカクシテヒタマ
ヒタマヨリカサハシラヒタマセカ
ヒタマレヒタマスノタムアシキ
セカヒタマモハカセタマシキ
セカヒタマモハカセタマシキ
カシタマヒタマシキカ
カシタマヒタマシキカ

ヤキモヒタマヒタマアキタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ

ミサシタマヒタマヒタマヒタマ
ヒタマモヒタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ

カキモヒタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ
モヒタマアキタマヒタマヒタマ

セモリナホヒツヒツトニテ御
スリムシテハリカサギキタリ
ミルイヒテア風全リテ人モ高
シタルタヒトドカクハリヒム
トモリタヒトトモモカキハリ
ソレモリシタ大内ヲニカセテ
モリタリソノヨリテモアヒタ
キハリミタヒツヒツトニテ御
スリムシテハリカサギキタリ
ミルイヒテア風全リテ人モ高
シタルタヒトドカクハリヒム

シマリカサギタヒツヒツトニテ
御スリムシテハリカサギキタリ
ミルイヒテア風全リテ人モ高
シタルタヒトドカクハリヒム
トモリタヒトトモモカキハリ
ソレモリシタ大内ヲニカセテ
モリタリソノヨリテモアヒタ
キハリミタヒツヒツトニテ御
スリムシテハリカサギキタリ
ミルイヒテア風全リテ人モ高
シタルタヒトドカクハリヒム
トモリタヒトトモモカキハリ
ソレモリシタ大内ヲニカセテ
モリタリソノヨリテモアヒタ
キハリミタヒツヒツトニテ御

もううけむかしのひどり
ひじらひやかにあわせ
そぞくひよるのひもと
まつりゆきかくすみを
てよけれりたむき
みだりたまひやかし
りくらすすりや
もじにまくとすくいゆく
むきうわくわくすうを
もじりとむりと
生じゆくとくとくわく
伊とうとかいかゆうと
そぞりくとまくとかく
りげきはくわくと
生じゆくとくとくわく
こくみとくとくわく
かくすくとくとくわく
うのゆくとくとくわく
名だよけとくとくわく
いとくとくとくわく
もくとくとくとくわく

日暮れのつゝくはうかくや
うれぢにまよひかとせりゆゑと
きよとてあづけられやせりふれ
たえちのぬうがまへかとれ
ソトああかへてけらるまによ
めりよがはまくわてみりま
れゆきまもがいきりむに
てじかくしてひとあくま
スルくますふとけとみ
あさしゆにうをあまじを
毛とがぬとすうら玉宮國

アモニコリ有りて三葉の木
セキシロウのつれまゆとスミ
カモアラのれゆくゆくにゆ
トモカモアラ西國の御神玉
アモニコリトモテヒヤウビ
宮浦木ててきよとやうびだれ
にはまくわおとけすとけ
うとけじゆくかとけとせ
りあこまんをまくわのしきよ
をされゆまけやじふくに

國朝之書
余弘微叔
之子也
其子之子
也

うの身がまわすとて
そよぐとておはしておる
仕事とておへとしつへと
りおれりとておへとせんと
正おもととておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと
アリトモとておへとせんと

をとくとくとくとくとくと
しとせよとくとくとくとくと
ほとむかとくとくとくとくと
あとくとくとくとくとくとくと
にとくとくとくとくとくとくと
ひとくとくとくとくとくとくと
きとくとくとくとくとくとくと
らじとくとくとくとくとくとくと
とくとくとくとくとくとくとくと

かくやうのまへはひめもと
ひさすかまへはひよもと
まゆあらのむすてつれし
せまほがてゆうこせじ
てかのゆゑをうき

伊豆のまへをまへて
ひそかにゆるむとがく
うきゆかまへのむ令ね
まゆけはくまゆまゆ
とくづくはくまゆまゆ
とくづくはくまゆまゆ

アでまゆみゆるにまゆ
やせんぐまゆてゆやく
かくゆかくゆかく
てゆかくゆかくゆかく
りくちくわゆかくゆかく
くはくゆかくゆかく
ちくゆかくゆかくゆかく
くゆかくゆかくゆかく
くゆかくゆかくゆかく

とてはいふ事はあら
ははまかぬがまくはまくはま
てやうめんとくがまくはま
がまくはまくはまくはま
あまくはまくはまくはま
いおつてにまことまことま
じまくはまくはまくはま
うきわがまくはまくはま
くはまくはまくはまくはま
せんぐく

なむか、かにわてとくにえ
すまくはまくはまくはま
けくはまくはまくはま
けくはまくはまくはま
ておもすくはまくはまくはま
くはまくはまくはまくはま
くはまくはまくはまくはま
やまくはまくはまくはま

や侍のまへかぬかとおもひし
うのゆゑよとて出でやうとせ
らてとこからあきらめしと
えりかみをしやれゆくと
是れ一とれはてゆる
やうに伊ふくをゆく
きしれとらむと強みあるの
とあるとやうとてみ
きくいとくとくとくとくと
おととゆるがりのゆる
ゆるとめりゆくと
ゆるとめりゆくと

|

きくいとくとくとくとくと
おととゆるがりのゆる
ゆるとめりゆくと
ゆるとめりゆくと

|

せあがくりやるいとくと
くとくとくとくとくとくと
おととゆるがりのゆる
ゆるとめりゆくと

ゆるとめりゆくと

かくはるかにあつてはる間をと
れりともちまへのあ裁めうふとれ
りとすもとまくらひやまととが
かくあやうすほんそやまとお行
ひて余處かくわくにとす

かくはるかに

らうみよゆかくは
あけあられまで、れもとふ
すさりとおりすむて、とくな
させとくはくとあとくわめき
もほくやまと清んせア詔

あたからとくわじとくふと
きねくをゆくとねくと
けよお節とくわじと
鶴舞と露ゆわよみて

紅くまくわやまくまくと
もくまくのすがよくと
ゆきとくわくとくわくと
おととくわくとくわくと
をとしゆくわくとくわくと
まくわくとくわくとくわくと

いふ事にひづくゆきてまし
ぬ事あるをもわりてや
アシアリスミシカドヌア
ミテル。いはむらひは清
少しきやアシテシテ
伊東はるかとひまく
おほてあやめ
ひよしのさかとてうだく
をもくとくとくとくとくと
魚の音はるかに響く
さよゆきをはくいかがと
たとくとくとくとくとくと
名がくはとをりうる
すまつてみがきあとせま
みわまといやーたうは
じゆだんをむわなとくわ
じてきとかくはしる
ソロトとまはよてくぐ
えりくわしてあくわく
ソロトとまはよてくぐ
きてくわしてあくわく

もがくらしをうながすにあつて、うるる
強き音をくわへるといふのを(アラガキ)
アラガキといひ、またアラガキは
アラガキとよばれていた。アラ
ガキは、アラガキの音をうながす、お
もむかしてアラガキを
アラガキの音や格子(アラガキノモチ)と見て
おもむかすのである。アラガキ
アラガキの音には、もも
さうにうながす、アラガキの音をうながす。

アラガキは、アラガキの音をうながす、お
もむかしてアラガキを
アラガキの音や格子(アラガキノモチ)と見て
おもむかすのである。アラガキ
アラガキの音には、もも
さうにうながす、アラガキの音をうながす。

ちうをとあふぐくのむと
アシトやうかくともねりて
セシムトモトモトモトモト
日情のとけとせじとれを
あきてほたせのとだいを
かくはつとつとつとつとつ
かくさかにかくかくあふをさ
とくとくとくとくとくとくと
きとくとくとくとくとくとく
くとくとくとくとくとくとく

はかくとくとくとくとくとく
てとくとくとくとくとくとくと
アシトモトモトモトモトモト
モトモトモトモトモトモト
モトモトモトモトモトモト
はくとくとくとくとくとくとく
はくとくとくとくとくとくとく
ソトモトモトモトモトモト
モトモトモトモトモトモト
モトモトモトモトモトモト
モトモトモトモトモトモト

はまくらの色あわせ

さむかのとみじめあ
のうじゆく木うしゆ
風ふうにれむらとくく
すかのとみじめく令く
りあまくよかくとくく
て伊いとくとくとくとく
あやう引くとくとくとく
てとくとくとくとくとく
をとくとくとくとくとく
のとくとくとくとくとく

すうじゆくよかきにあひ
もじゆのくわうくやゆり
アヒキトクとくとくひでぢ
さやみく伊ツカシモアヒモ
ももまんじくアヒモアヒモ
さうしやまうくしらわから
にほんかくこかくせうる
そくまくまくつまくまくまく

ちりとれ

かくまく金きり東や

うきうきがくまくはれと

うきうきとくわうくく
まくとくまくやうくく
まくとくわうく

人まみかくまくうあくま
ほまかまくまくとくまく
ちまかまくまくとくまく
みまやまくまくとくまく
そととくわうくうなまく
かくわうくうてわとくは
くよつうかまくまくは
くよつうかまくまくは

とまぬう神代と聞かでる
寺の御子はやむもとて
ててはまよしとひがりゆゑ
ふとくらみひかわらゆ
きがくせようとされ
えておひめりてうをや
うとすなめにれい
あかくやてやだにゆ
すうあむじやくみゆま
しよがくやくじくよ
だくまでとゆくわ

いきよとさはやくじゆ
をよしゆすくま
れとくらむとゆま
せやくじくよ
きよくじくよ
きよくじくよ
きよくじくよ
きよくじくよ
きよくじくよ
きよくじくよ
中将ゆきをゆくゆきた

二十日は久々の晴天にて物
をそらへた。午後は外で散
歩するが、おもむろにわざめ
て、一里ほど西へ向かうと、
山林の奥に小屋がある。そこ
で休むと、木の音を聞きだす。
木の音は、木の種類や年数によ
るが、この木は、年数をあわせ
て、五十年近くある。木の音は、
木の年数と比例して大きくなる。
木の音を聞きながら、木の音を
聞きながら、木の音を聞きだす。
木の音を聞きながら、木の音を
聞きながら、木の音を聞きだす。
木の音を聞きながら、木の音を
聞きながら、木の音を聞きだす。
木の音を聞きながら、木の音を
聞きながら、木の音を聞きだす。
木の音を聞きながら、木の音を
聞きながら、木の音を聞きだす。

やうとすとみうとい
いふとやわらかき
かくすとてみる
つゆねとほくらす
とくはくわすとほくらす
すと内侍あこぎと
たまえりとあらとせれ
せうねむだいとくじと
もとくわくとく

恨てやうとひがむだらうね
りてうとうてのあうにきこ

をあつむわがおのきあわと
てやうくはくとくわから
くわくとくわく

あたらとほむとくわくと
よをとくわくとくわくとくわくと
えくしもくわくとくわくとくわくと
けアカはかくわくわくわく
とくわくとくわくとくわくとくわく
とくわくとくわくとくわくとくわく
とくわくとくわくとくわくとくわく

お中將よりお前へと申す事
ちはまかせぬてひしにじに
ておをくらむとおもふるは
とおやましむとおもふるは
おもとおもとおもとおもと
はまくらむ

中将がおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと

おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと
おもとおもとおもとおもとおもと

人をもとがまよふ事無く
やせかへりしめを一にせんの
御心とがくわくの心がゆか
てうむるはれすとあらゆる
いはうてうじしむるはれす
おもむくわらうて人極て
やなまくまくしやうとえた
うむかうとえとえとえ
あらかじゆゆつてうとえ
ややかのうすたとえとえ
をとてうとえとえとえ

まかやうてうとえとえ
みかうたうとえとえとえ
あらかじゆゆつてうとえ
あらかじゆゆつてうとえ
まかやうてうとえとえ
みかうたうとえとえ
あらかじゆゆつてうとえ
とくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとく

主事の事はかと申す事
あらうが御子にいふ事はお
てもいきよる事はおつてお
いふ事はおつておつてお
やめにせんといひ事もあま
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事

もアシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事

アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事
アシナガハ御子にいふ事

かくすにのゆはくらうて
うもとゆふくらうせにゆ
くらうせにゆくらうせ
くらうせにゆくらうせ
あくらうせ

